

平成21年度 第4回北海道地方独立行政法人評価委員会公立大学部会 開催結果

1 開催日時

平成21年8月24日(月) 13:30~15:20

2 開催場所

道庁別館3階第3研修室

3 出席者

【委員】

舟橋 健市 部会長(公認会計士)
宇根 良衛 委員(独立行政法人国立病院機構 西札幌病院 病院長)
太田 明子 委員(太田明子ビジネス工房代表)
西 安信 委員(北海道工業大学学長)

【欠席委員】

和田 健夫 委員(国立大学法人小樽商科大学副学長)

【事務局(行政改革局)】

重田参事、漆館主幹、村上主査、冨加見主査、樋口主任

4 会議次第

1 開会

2 議事

(1) 平成20年度 北海道公立大学法人札幌医科大学の財務諸表及び利益処分承認に係る意見について

(2) 平成20年度 北海道公立大学法人札幌医科大学の業務実績に関する評価結果(案)について

3 閉会

5 議事概要

(1) 平成20年度 北海道公立大学法人札幌医科大学の財務諸表及び利益処分承認に係る意見について

【部会長】

- ・ それでは早速、議事に入ります。
- ・ 議事の(1)「平成20年度 北海道公立大学法人札幌医科大学の財務諸表及び利益処分承認に係る意見について」ですが、前回、事務局から説明のあった利益処分案については、道の財政当局との協議中とのことでしたが、その協議中の内容どおり確定したとのこと、事務局から報告を受けているところです。また、財務諸表については前回事務局から説明を頂いております。よって、今回はこれらに係る説明を省きたいと思っておりますが、それでよろしいですか(異議なし)。では、そのようにいたします。
- ・ なお、財務諸表に関して、皆様に確認していただきたい事項があります。これについては、お配りしている資料3の「財務諸表の承認について」を見ていただきたいのですが、内容は、評価委員会として、確認しておかなければならない事項が7つあります。これらの項目は、形式上の確認行為となっております。なお、表右側の確認結果欄の内容については、事務局で確認して問題ない旨、説明を受けておりますので、あらかじめ、ご報告しておきます。
- ・ では、これらの確認項目について、何か疑問点などございませんか(疑問点等なし)。

- ・ それでは、「財務諸表及び利益処分承認に係る意見」については、公立大学部会として特段なしということで、よろしいですか（異議なし）。
では、当部会として「意見なし」として処理いたします。

（２）平成 20 年度 北海道公立大学法人札幌医科大学の業務実績に関する評価結果（案）について

【部会長】

- ・ 次に議事の（２）「業務実績に関する評価結果」について審議を行います。
- ・ 資料５の「評価委員会意見確認結果一覧」については、前回の部会において、各委員から出された質問に対する法人回答及び事務局の考え方を付した資料について、みなさんで討議いただき、評価基準のＳＡＢＣに係る疑義等について、皆さんから意見をいただいたところです。
- ・ その後、前回部会においての各委員からの質問や、法人からの追加説明等を踏まえ、再度事務局で整理していますので、概要について事務局から説明願います。

【事務局】

- ・ 資料５についてご説明します。はじめに、資料の全体についてご説明いたします。
表の右から２番目までの欄より左側は、前回部会資料と同じ内容になっております。その後、前回部会審議時における委員質問を集約した形で、再度法人に対して、全体を通して事実確認を行いまして、その事実確認を踏まえて事務局としての委員会確認の考え方及び事務局確認案としてのＳＡＢＣを整理したものが、資料の最右欄になっております。
- ・ 次に、資料の内容についてご説明いたします。
前回の部会以降に医大に確認した結果、事務局といたしましては、Ｂ評価からＡ評価に２６項目を変更しています。９割以上実施していないと医大も我々も確認した項目はＢ評価としています。
- ・ また、医大がＡと評価し、事務局素案でＢと評価した項目で、今回Ｂ評価からＡ評価に変更した２６項目の中には、法人の主張どおり実施していると認められるものや、互いの主張が異なっている項目もありました。主張が異なっている項目については、年度計画において、到達目標が具体的に明示されていないことが主な要因でありました。
- ・ 来年以降の評価につきましては、今回の全体評価におきまして、「年度計画においては、到達目標を具体的に明示するとともに、法人自己点検評価において達成状況が客観的に判断可能な記載とすべきである。」と指摘しておりますので、来年度以降は厳しく評価をしていきたいと考えております。以上が概要の説明であります。
- ・ 次に、前回の委員会におきまして、病棟クラークの収支改善について、「病棟クラークを増員したことにより、現場の医師やコメディカルも非常に助かるということはメリットだと思うが、その効果を法人全体として、収支として定量的に評価した上で導入したのかを、確認する必要がある」というご意見がありました。
- ・ 事務局で確認をしたところ、産科・周産期科において、平成２１年１月から病棟クラーク１名を配置しておりまして、導入前、導入後の診療報酬点数を比較したところ、当科におきましては、ハイリスク分娩管理加算などの各種加算が算定されていますが、導入後、各種加算の適用チェックを入念に行うことが可能になったため、診療報酬は増加しており、その増加額は、病棟クラークの人件費を上回っている、と医大の方から確認を得ています。以上です。

【部会長】

- ・ 資料５について、ご説明をいただきました。要するに、こちらの方でＢ評価ではないかという意見に対して、医大から「いやＡ評価である」と返答があって、とりあえず事務局素案としては、医大の方の意見をかなり取り入れているということです。
- ・ これは、数値化されているものははっきり分かるのですが、数値化されていないものは、水掛け論になってしまうということもあります。
- ・ それで、今回、資料をくださいとか、どういう組織で検討したのかとか、メンバーはどうなっ

ているのかとか、議事録はあるのかとか、そういう色々なことをこちらから質問して、お互いに、何が必要なのかというものは出てきたような感はあります。

- ・ 簡単に言えば、今回は執行猶予的な面があって、あえて医大の方の言い分をかなり受け入れたのが、事務局の案であると私は理解しております。

やはり、総合評価でⅡかⅢかというのは、私どもの予想をはるかに超えて、法人にとってはかなり大きな問題であるようです。

- ・ 事務局から資料が提示されていますが、これについていかがでしょうか。B評価からA評価に戻したのもありました。皆さん事前に目を通していると思いますが、どうでしょうか。「やっぱりA評価でなくてB評価ではないか」とか。

個別に、この項目は少し再検討が必要ではないかというのがあれば、ご発言いただきたいと思います。A評価の判断基準については、最後に若干議論はしたいと思っています。

- ・ では、私からですが、9ページの232と233番の法人の回答で、これは読んでいて、前段の回答とほとんど変わっていないと思うのですが、BからAに評価が変わったというのは、先ほど冒頭のご説明のとおり、とりあえず向こうが主張しているの、受け入れたという趣旨ですか。
- ・ 他の項目では、添付書類をつけたとか、議事録があるとか一応何か書いてあるのですが、この2つを見たら、特に232は「～したことからA評価としたものである」という言葉がついているだけで、説明には何の変化もないし、233も言葉の順序は少し変わったかもしれませんが中身は同じですよ。

【事務局】

- ・ 232については、教育研究費の個人への配分によることを決定したという内容が分かる資料があるということでしたので、法人に対して提供を依頼していたのですが、間に合わなかったものです。

【部会長】

- ・ ここには書かれていないけれども、事実としてあるということが前提ということですね。わかりました。

【事務局】

- ・ 233については、ここまで実施しているという法人側の主張がかなり強く、実施したものを評価しないのかという話になり、法人の主張どおりA評価としたものであります。

【部会長】

- ・ これ以上は水掛け論になるということですね。わかりました。
- ・ 他はいかがですか。

個別に細かく見れば、言いたいこともあるかもしれませんが、とりあえず、そういう微妙な問題なので、今回は執行猶予ということで良しとしましょう。その代わり、来年の評価は、評価に当たってどういった情報が必要かということが段々見えてきましたので、今回よりは良い議論が出来るのかなと思っています。

- ・ ただ、こちらの質問等に対して、最初の7月時点では法人から何ら回答がなかったにもかかわらず、8月に入ってから突然回答してきたというものがあります。今回は大目に見て受け入れましたが、来年以降はそれを認めるべきではない。

回答が遅れるなどの意思表示をしていればまだいいですが、当初の期限で回答が無ければ、後は一切検討しない。この次はこういう場合は検討しないという対応にするべきでしょう。

【委員】

- ・ 正直に言って、今回出てきた説明の中には、これで判断するというのは非常に難しいものもあります。私としては、あまりにもおかしなものがない限りは、今回に限ってはそのままよいのではないかと思います。来年度以降や、中期計画の最終年度に向けて、明確な基準を私どもで考えていきたいと思っています。

【部会長】

- ・ 確かに少なくとも、我々が素直に読んで分からないものは困ります。我々に分からなければ、一般の方が見て分かるわけがないですから。
- ・ 諸々デリケートなところがありますが、それを総合的に勘案しまして、事務局素案のとおりで認めるということでやむを得ないと思います。あとは、来年以降きちんとやってもらうということで。
- ・ では、資料5につきましては、事務局の案どおりということで決定したいと思います（異議なし）。
- ・ それから続きまして、資料6の「業務実績に関する評価結果」についてですが、本内容については前回の部会において、素案が提示され、法人に対する課題の部分の表記等について前回議論になったところです。
前回の審議を踏まえ、事務局で再度、案を作成しておりますので、変更箇所等について、事務局から説明願います。

【事務局】

- ・ お手元の資料6「業務実績に関する評価結果」についてご説明いたします。
- ・ 表紙の裏側の「評価にあたっての基本的考え方」については、変更ありません。
- ・ 1ページ目の「全体評価（案）」については、前回特に意見がありませんでしたので、基本的にはそのとおりにしていますが、資料下段のA評価以上の項目数については、前回からBからAに変わる項目がありますので、数字が変わっています。それで、全体的には、458項目のうち、A評価以上となった項目は415項目で、90.6%。総合的に勘案すると概ね順調に進んでいる、と前回から変えています。それから指摘事項については前回と同じです。
- ・ 次に、2ページから8ページまでの「項目別評価（案）」については、前回、黒丸（●）の課題の部分の記載について、実施状況が遅れており委員会として指摘せざるを得ない項目についてのみ黒丸で記載するとのご意見を踏まえ、具体的には、C評価の項目についてのみ黒丸で記載し、表現を柔らかくしました。B評価の項目については削除することとして整理しています。
- ・ 次に9ページの項目別評価（総括表）については、昨年度における評価、及び前回部会資料においては、先ほどの項目別評価（記述式）において黒丸課題とした項目については、本総括表においても黒丸課題として記載していたところです。
- ・ 今回の事務局案においては、B評価項目について、総括表からも黒丸を削除した場合、各大項目及び中項目において、例えば「やや遅れている」評価となっている場合、具体的になにが遅れているが全く判らないこととなってしまい、評価委員会としての説明責任を果たさない形となってしまいます。
- ・ そのため、今回の事務局案においては、「やや遅れている分野」として、B及びC評価の遅れている項目すべてを、項目のみ箇条書きで記載する形に事務局で整理しております。
なお、記載の煩雑化を避けるため、項目については、中期計画の文言から抜粋して箇条書きし、その後ろに関連する年度計画番号を記載する形をとっております。
- ・ ここに記載した項目は、項目別確認でB又はC評価となった項目すべてを記載した形で整理しております。
資料6に係る説明は、以上です。

【部会長】

- ・ 今、事務局から資料6に関して、ご説明いただきました。
- ・ それでは、「業務実績に関する評価結果」についてご意見を伺いたいと思いますが、みなさんいかがでしょうか。

【委員】

- ・ 感想なのですが、シンプルに、C評価だから載せるとか、項目別評価の総括表でもB評価だから載せているというような、こちら側から明確にしているという態度は、評価される方としても、

非常に分かりやすく、きれいにまとまったと思います。

- ・ 前回はある程度指摘させていただくべきという意見も出たのですが、シンプルに評価だけさせていただくということで、皆さん納得いただいたということでもよろしいでしょうか。

【部会長】

- ・ その点は最終確認します。このようにシンプルな表現で差し支えないかどうか。前回の議論では、黒丸の判断基準をこちらの方で明確に示すことが出来るのかどうかという話があって、結局は淡々とやりましょうという話だったと思いますが、このやり方でよろしいですかね(異議なし)。

【委員】

- ・ 総括表で細々と指摘するより、よく分からないからというのは別のところで言うべきだと思うので、これは通知表のように淡々と書いた方が効率的かと思います。

【部会長】

- ・ 来年以降まだ先がありますから、またいい考え方が見つければ、検討して変えていけばいいと思います。確かにこれは客観的でよいと思います。
- ・ 他にこの資料6について意見等がありますか。

【委員】

- ・ 私立大学の認証評価だと、大学数の約1割が基準に達していないから保留となり、2年後までに改善案を作りなさいという指示がされます。反論するチャンスはあるのですが、認められない場合は保留になる。保留になると我々としては非常に困るのですが、1回判定が下ったらどうしようもないです。

ですので、先ほど部会長がおっしゃった、7月に弁明しないで、後から言ってきたものを受け入れるという部分についてはどうなのかなと。

【部会長】

- ・ そうですね。その点は後でまた確認したいと思います。
- ・ A評価の問題ですが、今回、非常に悩みましたが、昨年のS評価の場合は割りとやり易い部分はあったかと思います。今回はA評価かB評価ということで、総合評価(A評価以上が9割で「Ⅲ」)に影響することもあるとあって、来年以降もこれで揉める可能性はあります。
- ・ それでどうするかですが。一つは指摘事項にもありましたように、法人が目標を明確に掲げて、それに対して、達成したかどうかをまず法人自身が判断して欲しいということがあります。後は今回、こちらから資料を求めたり質問をしたりということ随分しましたので、その辺りも、法人もこちらも、要領が分かってきたかなという感じはします。
「検討する」に対して「検討した」というような答えが出てくる場合に、一つはどういう組織で検討したのかということと、検討の中身や結果がどうなっているのか、その記録はあるのかということです。

【委員】

- ・ 私は、ある自治体の評価委員もさせていただいているのですが、こちらも同様に、「検討する」という計画に対し、実績が「検討した」となっているものがあります。
中身をよく見ると、この検討するというのは、「やらないかもしれないが考えました」という意味のようです。
- ・ 今回は、90%という数値を達成できるかどうかは「検討する」では確認が難しいので、「検討する」以外の言葉で表現していただけないかという提案をしてみたらどうかと思います。
- ・ 「検討する」に対して「検討した」という、判断が出来ないような結果にどうしてもなってしまうので、今年の場合は本当に仕方がないと思いますが、書き方に関して、こちらから何か条件をつけるとすると、まず一つは、そういう文言の書き方があると思います。
- ・ 道庁さんで、「付加価値」という言葉をつけて、何でも新しいものを作ることがよくあ

って、その言葉を使わずにやってくださいと言うと、かなり具体的な言葉で出てきたということがあるので、文言の使い方に関しては、実施するとか、開設するとか、増員するとか、具体的な表現であれば、お互いに判断が出来ますので、記載方法についてはもう少し提言したらよいと思います。

- ・ 例えば、議会用語的なものは使わずに、分かりやすい言葉を使わなければいけませんよという言い方も必要ではないかと。「検討する」で「検討した」では判断出来ないと思います。

【部会長】

- ・ そうですね。他の項目で90%を大きく超えていればいいですが、その項目が全体の90%の達成に影響を与えるような状況になると法人も譲らなくなるでしょうし。

【委員】

- ・ 達成度が9割という数字はさておき、「検討した」という結果には定量的な達成度は現れてない。何か非常に矛盾を感じます。

【委員】

- ・ 数値目標のあるものはいいいですが、やはり「検討する」という表現で終わっているものに対しては、検討した過程と結果を見せなさいということになりますね。

【部会長】

- ・ そうですね。少なくとも、「検討した」とするのであれば、その代わりそれを証明できる資料を、こちらから言われてからではなく、最初から出してくるのが当然ですね。
- ・ 委員のところでは計画と評価はどうされていますか。

【委員】

- ・ 私どもの場合は、まず理念があり、その理念に沿って何をするかというのがあって、それを外部評価委員会の評価を受けるのですが、やはりメインは収支の数字です。

それで、中にはアナログ的な解釈もありまして、「改良する」とか。それも満足度調査などをして数字で出せないことはないですが、「質の高い」という表現については、質が高いというのはどういう意味なのかという話になるなど難しいのですが、数字で評価されるのは、そもそもが数値指標である項目である収支などだけです。

ただ、結局、法人が自ら計画を立て、年度の目標を立てて、それを自己採点して、我々は中身を評価するわけですから、90点以上取れるような問題を自分たちで作って解答して、じゃあ90点だねと評価委員会から言うという、本質的にはそういう構造だと思います。

【部会長】

- ・ 確かに単年度ではそうですね。それと中期計画との兼ね合いもありますから、単年度の計画が甘すぎると、最後で法人自身が中期計画を達成できずに困るということもあります。
- ・ 普通であれば、中期計画を6年で達成するために、その年その年の評価や計画があるわけですから、そういった進捗管理を当然やると思います。
- ・ 今進行中の年度が終わった段階で、6年間の中期計画の半分である3年を過ぎますので、中間評価をやることになりましたが、その段階で一応チェックがかかりますので、法人側もその辺りは意識をしていただけたらと思います。
- ・ 他に何かないですか。

【委員】

- ・ 資料5の39では、中期計画の「導入について～検討する」に対して、「委員会を開きました」という回答でA評価になっているのですが、それであれば中期計画を「導入について検討のため委員会を設置する」や「委員会を開催する」などにしていただければ、何回開催するなどの目標になると思います。

- ・ また、例えば2ページ目の52では、中期計画では「再編について検討する」とありますが、これに対して「調査を行って検証しました」と回答しています。ですので、中期計画は「再編等について調査及び結果を検証する」というようにしていただければ、それをやっているかどうかの判断が出来ます。
- ・ 「検討する」に関して、「委員会を開いた」とか、「調査した」とか、具体的に書き示すことが出来る表現があるはずで、「検討する」以外で、委員会を開くのか、調査するのか、何か具体的に物を購入するのかなど、体系的に分けられるはずなので、そういう書き方をしていただければ、中期計画の6年間でこういうことがしたいということがあるわけですから、こちらとしても評価しやすいと思いました。
- ・ 繰り返しますけど、「検討する」というのは、実施するかどうか考えるという意味なので、とりえず全て検討すればOKということになってしまい、指標化しにくいということになってしまおうと思うのですが、具体的に実施する予定のあること、やりたいこと、対処法などがあるはずなので、そのような書き方をしていただけると、判断がしやすいと思います。
- ・ 他にこちら側として評価する場合に、自己評価の表現について分かりやすく示す方法が何かないかと色々考えたのですが、正直、議会用語を使わないだけでもかなり具体性がでてくるかと思っています。
- ・ 別の例で、1ページ目の23番ですが、この「検討する」は結局、廃止を決定したからA評価になったものですよ。39番に関しては、委員会をやったからA評価に戻ったわけですよ。A評価に戻った理由が二つとも違うのに、目標の立て方がいずれも「検討する」というところが分かりにくいと思います。
- ・ 目的がはっきりしない計画の立て方なので、同じ表現であるのに結論が違う実施内容で終わっているというのが、中期計画の一番の問題点だと思います。行政の場合、先に事業があって後に目的を立てるという、非常に行政的な目標の立て方だと思うのですが、原点に立ち返って、目的は何かということ、文言を考えていただければ、それを読む側は非常に分かりやすく理解できるのではないかと思います。
- ・ 他に何かお金をかけずに、分かりやすく表現する方法がないのかと考えたのですが、これが一番お金と手間がかからず、適当だと思います。

【部会長】

- ・ 今、委員が言われたように、「検討する」という表現は、努めて避けてもらって、もう少し具体的に表現して欲しいということを行った方がよいでしょうか。

【委員】

- ・ やはり「検討して何々をやった」ということで、初めて評価されるのではないかと思います。

【部会長】

- ・ 結局、どういう方向に行くために検討するとか、何をするために、何かをしたいためにあることを検討するということですから、何かやりたいことが確かにありますよね。
- ・ 「検討する」と書くのは、万が一達成できなかったときのことを無意識に考えてしまうのでしょうか。

【委員】

- ・ 数字で示せるものは、出来るだけ数字で示してもらいたいです。評価が始まってからもう3年目ですので、20年度の実績が、例えば患者の紹介率が28%ということであれば、21年度、22年度は目標値を何%くらいに設定するか、具体的な数字を示した方がやる方もやりやすいし、評価する方もしやすい。
- ・ それから大学院生の博士論文の投稿のジャーナルは質が高いと言っていますが、これもこちらから問い合わせた結果出てきたような状況で、では、外国誌の投稿率は何%にしたいのか、前年度がこうだったので、あと10%上げたいとか、そういう計画を出してもらおうと、評価はより正確に、客観性を持って出来るのではないかと思います。

【事務局】

- ・ 今、委員がおっしゃったように、法人側も、客観的な記載が必要であるということが、少しずつ分かってきたというのが実態だと思います。

【部会長】

- ・ 確かに、中期計画を作成するとか、それを踏まえて各年度の計画を作るということ自体、あまりやっていなかったかもしれないですね。
- ・ そうすると、やはり年度計画ぐらいは「検討する」という言葉を使わないで、何か別な言葉に変えてくださいと、そのぐらいはっきり言ってあげた方がいいのでしょうか。数値化できれば一番全く問題ないのですが。
- ・ 平成21年度の年度計画でも2百何十項目ありますから、全部は数値化出来ないと思いますが、数値化できないものに関しては、もう少し分かりやすく、到達目標をはっきり示して欲しいということの、具体的な一つの例として、紛らわしいので「検討する」という言葉を別の言葉に変えてくださいと。

【委員】

- ・ 今年度に関しては、何か具体的にやることがあるはずなので、それを示していただくべきだと思います。また、以前から感じていることなのですが、「頑張っています」というのは評価の対象にはならないということ、理解してほしいです。
私たちは結果がどうだったのかということ、シンプルに考えるべきであって、先方から出てくる回答が「頑張っています」ということしか出てこないのですが、それが今回A評価になったりして、評価委員会としては非常に優しい態度だと思うのですが、来年度以降は、経過に関しては考慮するけれども、シンプルに結果だけを分かるようにしてくださいと、毅然とした言い方を一度してみたいという気持ちもあります。

【部会長】

- ・ 確かに、「努力する」、「出来る限り」とどこかにありましたね。

【委員】

- ・ 9ページの232番に、「研究者のモチベーションを高める仕組みの整備に努める」とありますが、これは全ての社会の中で、研究者でも労働者でも学生にしても何にしても、皆このために苦労している訳ですので、これが100%達成できるということはないのではないのでしょうか。

【部会長】

- ・ そのための「仕組みの整備に努める」と言っていますので、一般的に言われている手法を何個かやってみるというイメージでこれは書いたのでしょうか。
- ・ 232の中期計画が「研究者のモチベーションを高める仕組みの整備に努める」、年度計画が「研究者のインセンティブを確保する仕組みの整備について検討する」。「モチベーション」から「インセンティブ」に言葉が変わっているだけで、あとはほとんど同じですね。
確かに、モチベーションを高めるための手段の一つとしてインセンティブというものがありますから、お金の面あるいは肩書きの面なのでしょうが、主にお金ですかね。区別が付くと言えは付きませんが、同じような気もします。
- ・ 232の年度計画としてはこの表現ではあまり良くないのではないのでしょうか。多分医大さんの年度計画の作り方が、まだあまり要領が分からなかったということかもしれないですが。
- ・ 改めて「検討する」という言葉に注目すると、本当に多いですね。

【委員】

- ・ 9割という数値があって、それが分かるようにというのであれば、自己評価が「検討する」で

は、その時点で既に評価されることを避けていると判断せざるを得ないと思います。

【部会長】

- ・ 平成21年度計画では、中期計画と同じ文言を使っているものがまだ残っています。かなり減ったと思うのですが。
基本的に中期計画と年度計画が全く同じ文言というのは良くないですよ。22年度以降の課題になるとは思いますが、よほどのレアケースでない限り、そういうことにはならないと思います。

【委員】

- ・ 資料で「検討した」ということであれば、その検討したという結果を出せば、それで評価の対象としていいと思います。ただ、それについては、どういう委員会で検討したのかわかるような、例えば議事録などで説明をしていただくことが必要ですね。その結果として、さらに検討を要することになった場合であっても、評価の対象と出来ると思います。
- ・ 「検討する」という言葉を使わざるを得ない場面もあるかもしれないので、その場合には、少なくとも検討したことを立証する資料は出さないということですね。

【委員】

- ・ 論点が変わりますが、まず、今後、黒字で経営していただくかなくてはならないということになりますと、マイナス分が道から補填されて収支がほぼ均衡しているという現状で、戦略的に経営していかなければならないと思うのですが、費用対効果という考え方があって、ものすごくお金をかけて検討して、やっぱり結論が出なかったのが先送りした、ということでは、それは評価としてはB以下だと考えます。今年度、来年度には急に無理かもしれませんが、そのような経費的な考え方を入れるべきなのかどうか。もし入れるのであれば、どういうタイミングで入れなければならぬかということ、考えた方がいいのかどうか。
- ・ 今回、病棟クランクに関して、金額的な表現で実績が出てきたこともあり、調査をしたとか、新しい部署を作って人を雇ったというのであれば、費用対効果としての評価ということも、今後していくべきという考え方もあると思うのですが、こういった議論をするべきなのかどうか、非常に悩んでいます。
- ・ できれば資金計画も出していただいて、評価委員会として、法人の公認会計士の方に説明を受けるということが必要になってくる時代になるとすると、経営として見た場合の費用対効果としての項目の評価、という考え方を入れてはいいのではないかと、少し思っています。
- ・ 例えば、ホームページを作成した場合に、何かの周知やPRを充実させるような効果が考えられますが、作成に要した費用がその効果に見合ったものかどうか。一般の企業であればそういう考え方をしたいと思います。
- ・ 検討していただくのはしょうがないとしても、やはり、目的達成のためには適度な経費というものが必要だと思います。法人がそういう意識をお持ちかどうか分からないので、そういうことも考えていただく。それは一つの大仕事になると思います。ただ、病棟クランクに関しては、人件費がいくらで、これだけ効果があったという説明がされているので、いくつかの項目はこのように金額で評価されるべきとも思います。

【部会長】

- ・ 基本は北海道からの交付金を減らす方向にということが、出発点なのでしょうから、そこから考えると、私たちの直接的な仕事ではないかもしれませんが、そういうことを頭に入れて、やれるならやった方がいいと思います。
病棟クランクは収益が上がるからやったと、非常に分かりやすかったです。ですから、全部がこのようにはいかないかもしれませんが、確かに金額的、数値的に把握できるものは漏れなく確認した方がいいかもしれません。

【委員】

- ・ この委員会が言うことではないのかもしれないですが、札幌医大は儲かっている企業ではないので、数字的な観点での評価があるということを意識していただくためにも、そういった費用対効果を示す経験をしていただくというのが必要かと思います。

【委員】

- ・ 教育と研究を費用対効果で見るとというのはなかなか難しいかと思いますが、少なくとも病院に関しては、掴みの数字でもいいので、そういうものが知りたいという気がします。いわゆる損益計算書でいうところの、人件費が増えたのか減ったのか、材料費が増えたのか減ったのかという点は、附属病院では常に意識しているはずですので。だから、病棟クランクについてそういう観点で説明が出来たということですよ。

【部会長】

- ・ 金額的観点は必要ですよ。どの段階で評価の指標として入れられるかどうかは分かりませんが、気が付いた範囲でそれを念頭に置いて質問などをすることは必要だと思います。
- ・ そうすると、まとめとしては、まず、A評価、B評価に関しましては、指摘事項にもあるように、出来るだけ年度計画の目標は具体的に書いてもらおうと。具体的に書けなかったら、少なくとも頭の中にはあるでしょうから、意識して自己評価をやってもらいたいということ。
- ・ それから、「検討する」の件については、こちらとしては、「検討する」を別な言葉に置き換えるという、少なくとも年度計画では置き換えた方がいいと思いますが、どうしても「検討する」という言葉でしか表現しようがない場合でも、検討した組織、検討した記録、検討結果がどうであったのか。検討した結果、目標に対する阻害要因が新たに出てきたのであれば、それはそれできちんと認識するということは大事なことです。それで、その結果どういう方針で向かうとか、そういうことがきちんと記録されていけばいいということ。
- ・ それから、平成21年度計画にも若干残ったようですが、中期計画と年度計画が概ねほぼ同じ文言ということはやめた方がいいと。平成22年度には撤廃して欲しいということと言えます。何かの事情があってそうなってしまったのかもかもしれませんが。
- ・ それと、費用対効果の問題。計画を実行するために措置を講ずるには費用がかかりますが、費用をかけたから必ず収益が増えるとは限らないと。病棟クランクの場合はレアケースですが、私たちの方も出来るだけお金の方を念頭に置いて、何か質問などする場合は、お金のことを頭に入れておくことは必要ですね。なかなか医大の方の場合、その辺の頭の切り替えはまだ出来ていないかもしれませんので、こちらがその辺の配慮をすればよいのではないかと思います。
- ・ あと他に意見等ございますか。（意見等なし）
- ・ では、今日の審議、評価案件はこれで終了でございます。

7月から8月にかけて3回部会をやってきまして、執行猶予的な部分は色々ありますが、何とかまとまったという感じはします。また、来年度以降は、項目数もかなり減りますから、少しは楽になるのではないかと思いますし、今回お互いに勉強できた面もありますから、来年の評価のときはまたもう少しいい形で出来ると思いますので、来年以降もよろしく願います。

【事務局】

- ・ それでは、これで承認をいただいたということで、事務局で再度、誤字脱字等をチェックいたしまして、最終的に部会長に確認していただいた後、各委員に送らせていただきますので、よろしく願います。ありがとうございました。